

平成25年度

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	東京大学	機関番号	12601
1. 全体責任者 (学長)	※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) 氏名・職名 はまだじゅんいち 濱田 純一 (東京大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はらた のぼる 氏名・職名 原田 昇 (東京大学大学院工学系研究科長/都市工学専攻・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おおかた じゅんいちろう 氏名・職名 大方 潤一郎 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・教授/ 高齢社会総合研究機構・機構長)		
4. 申請類型	T <複合領域型(横断的テーマ)>		
5.	プログラム名称	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	
	英語名称	Graduate Program in Gerontology : Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(社会学),博士(社会心理学),博士(教育学),博士(法学),博士(学術),博士(工学),博士(農学),博士(獣医学),博士(医学),博士(保健学),博士(環境学),博士(情報理工学) 付記する名称: 高齢社会総合研究プログラム修了		
7. 主要分科	(① ケア学) (② 社会学) (③ 建築学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	人間情報学、情報学フロンティア、生活科学、地理学、社会・安全システム科学、健康・スポーツ科学、哲学、法学、政治学、経済学、心理学、教育学、材料科学、機械工学、電気電子工学、土木工学、プロセス・化学工学、ゲノム科学、生産環境農学、農芸化学、水圏応用科学、社会経済農学、農業工学、動物生命科学、基礎医学、境界医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、看護学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	高齢社会総合研究機構、【工学系研究科】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人文社会系研究科】社会文化研究専攻 【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法学政治学研究科】総合法政専攻 【総合文化研究科】広域科学専攻 【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医学系研究科】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域創成科学研究科】先端エネルギー工学専攻、メディカルゲノム専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
ミシガン大学ジェロントロジー研究機構、オックスフォード大学高齢社会研究所、ミズーリ大学法科大学院、シンガポール国立大学 Duke-NUS 医学大学院 Health Services & Systems Research、ソウル大学ジェロントロジー・トランスレーショナル研究センター			

(機関名:東京大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 原田 昇	ハラタ ノボル	58	大学院工学系研究科長/都市工学専攻・教授	都市交通計画 工学博士	事業総括、居住環境分野担当
(プログラムコーディネーター) 大方 潤一郎	オホカタ ジュンイチロウ	59	大学院工学系研究科都市工学専攻・教授/高齢 社会総合研究機構・機構長	都市計画 工学博士	プログラムの企画推進調整、運営委員会 委員長、居住環境分野担当
秋山 弘子	アキヤマ ヒロコ	69	高齢社会総合研究機構・特任教授	老年学 Ph. D.	社会システム分野担当、カリキュラム編 成担当、国際連携推進担当
辻 哲夫	ツジ テツオ	65	高齢社会総合研究機構・特任教授	福祉行政 法学士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編 成担当、産官学民連携推進担当
飯島 勝矢	イジマ カツヤ	47	高齢社会総合研究機構・准教授	老年医学、老年学 医学博士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編 成担当
武川 正吾	タケガワ ショウゴ	57	大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教 授	福祉社会学 社会学修士	社会システム分野担当
白波瀬 佐和子	シラハセ サワコ	54	大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教 授	社会学 博士号(D. Phil)	社会システム分野担当
牧野 篤	マキノ アツシ	53	大学院教育学研究科総合教育科学専攻・教授	社会教育学、 生涯学習論 博士(教育学)	社会システム分野担当、カリキュラム編 成担当
東郷 史治	トウゴウ シメサル	44	大学院教育学研究科総合教育科学専攻・准教授	教育生理学 博士(教育学)	ケアシステム分野担当、プログラム評価 担当
北村 友人	キタムラ ユウト	40	大学院教育学研究科学校教育高度化専攻・准教 授	教育政策、国際教育 開発論 Ph. D.	社会システム分野担当、国際連携推進担 当
加藤 淳子	カトウ ジュンコ	51	大学院法学政治学研究科総合法政専攻・教授	政治学 政治学博士	社会システム分野担当、国際連携推進担 当
樋口 範雄	ヒグチ ノリオ	61	大学院法学政治学研究科法曹養成専攻・教授	英米法、医事法、 信託法 法学士	社会システム分野担当、国際連携推進担 当
岩村 正彦	イワムラ マサヒコ	56	大学院法学政治学研究科法曹養成専攻・教授	社会保障法 法学士	社会システム分野担当、カリキュラム編 成担当
岩本 康志	イワモト ヤスシ	51	大学院経済学研究科現代経済専攻・教授	公共経済学 経済学博士	社会システム分野担当、カリキュラム編 成担当
荒井良雄	アライ リョウオ	59	大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授	人文地理学 博士(工学)	社会システム分野担当、フィールド演習 企画担当
羽藤 英二	ハフ エイジ	45	大学院工学系研究科社会基盤学専攻・教授	都市計画・交通計画 博士(工学)	居住環境分野担当
大月 敏雄	オホツキ トシオ	45	大学院工学系研究科建築学専攻・准教授	建築計画 博士(工学)	居住環境分野担当、カリキュラム編成担 当
中尾 政之	ナカオ マサキ	54	大学院工学系研究科機械工学専攻・教授	生産技術、ナノ転 写、失敗学 博士(工学)	生活サポートシステム分野担当、産官学 民連携推進担当
浅間 一	アサマ ハジメ	54	大学院工学系研究科精密工学専攻・教授	ロボット工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
大久保 達也	オホクベ タツヤ	52	大学院工学系研究科化学システム工学専攻・教 授/総括プロジェクト機構プラチナ社会総括寄 付講座・教授(兼務)	プラチナ社会、化学 工学、ナノ材料 工学博士	生活サポートシステム分野担当
田中 敏明	タナカ トシアキ	54	先端科学技術研究センター・特任教授(大学院 工学系研究科先端学際工学専攻兼任)	リハビリテーション 科学、理学療法 博士(工学)	生活サポートシステム分野担当
安永 円理子	ヤスナガ エリコ	39	大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専 攻・准教授(同研究科生物・環境工学専攻兼 担)	ポストハーベスト工 学 博士(農学)	食分野担当
阿部 啓子	アベ ケイコ	66	大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・ 特任教授	食品科学、味覚科 学、遺伝子科学 農学博士	食分野担当、産官学民連携推進担当
佐藤 隆一郎	サトウ リュウイチロウ	56	大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・ 教授	食品生化学 農学博士	食分野担当、プログラム自己評価・外部 評価担当
潮 秀樹	ウシオ ヒデキ	49	大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻・ 教授	水産化学、食品科学 博士(農学)	食分野担当

(機関名:東京大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
中嶋 康博	ナカシマ ヤスヒロ	53	大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻・教授	農業経済学、フードシステム論 農学博士	食分野担当
関崎 勉	セキサキ ツトム	57	大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター長・教授(同研究科応用動物科学専攻兼任、獣医学専攻兼任)	獣医細菌学、食品病原微生物学 獣医学博士	食分野担当
橋本 英樹	ハシモト ヒデキ	50	大学院医学系研究科社会医学専攻・教授	医療経済学、社会学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、社会システム分野担当、フィールド演習企画担当
秋下 雅弘	アキシタ マサヒロ	52	大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻・准教授	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当
小川 純人	オガワ スミト	44	大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻・講師	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
本間 之夫	ホンマ ユキオ	60	大学院医学系研究科外科学専攻・教授	泌尿器科学 医学博士	ケアシステム分野担当
芳賀 信彦	ハガ ノブヒコ	50	大学院医学系研究科外科学専攻・教授	リハビリテーション 医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
永田 智子	ナガタ サトコ	43	大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・准教授	地域看護学 博士(保健学)	ケアシステム分野担当
森 武俊	モリ タケトシ	45	大学院医学系研究科ライフサポート技術開発学(モルテン)寄附講座・特任准教授	看護工学 博士(工学)	ケアシステム分野担当、生活サポートシステム分野担当
堀 洋一	ホリ ヨウイチ	57	大学院新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻・教授	電気工学、制御工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
菅野 純夫	スガノ スミオ	60	大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻・教授	ゲノム医科学 医学博士	ケアシステム分野担当
加藤 直也	カノウ ナオヤ	51	医科学研究所・准教授	消化器内科学 医学博士	ケアシステム分野担当、フィールド演習企画運営担当
鎌田 実	カマタ ミル	54	大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・教授	生活支援工学 工学博士	プログラムコーディネーター補佐、生活サポートシステム分野担当、産官学民連携推進担当
飛原 英治	ヒハラ エイジ	58	大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・教授	熱工学、冷凍空調工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
大野 秀敏	オノ ヒデトシ	63	大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・教授	居住環境設計学 博士(工学)	居住環境分野担当
檜山 敦	ヒヤマ アツシ	34	大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻・特任講師	ヒューマンインターフェイス 博士(工学)	生活サポートシステム担当
Toni Claudette Antonucci	トニ クロデット アントヌッチ	64	ミシガン大学副学長(Associate Vice President for Research, Social Sciences and the Humanities)	ジェロントロジー Ph. D.	国際連携アドバイザー
David English	デービッド イングリッシュ	59	ミズーリ大学法科大学院・教授	高齢者法 Ph. D.	国際連携アドバイザー
Sarah Harper	サラ ハーパー	59	Director, Oxford Institute of Population Ageing / Professor of Gerontology and Senior Research Fellow, Nuffield College, Oxford University	ソーシャルジェロントロジー Ph. D.	国際連携推進担当
Gyounghae Han	ギョングヘー ハン	56	Professor, Division of Consumer Studies and Child and Family Studies, College of Human Ecology, Seoul National University	Family Study Ph. D.	国際連携推進担当
Angelique Chan	アンジェリック チャン	45	Associate Professor, Department of Sociology, National University of Singapore and Duke-NUS Graduate Medical School	社会学 Ph. D.	国際連携推進担当
大内 尉義	オウチ ユサヨシ	64	国家公務員共済組合連合会・虎の門病院長	老年医学、老年学 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
永田 久美子	ナガタ クミコ	53	社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター・研究部副部長	認知症ケア、当事者ネットワーク 看護学修士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
太田 秀樹	オウタ ヒデキ	59	医療法人アスミス 理事長	高齢者・障害者医療 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
秋山 正子	アキヤマ マサコ	62	(株)ケアーズ白十字訪問看護ステーション代表取締役所長	在宅看護、地域包括ケア 衛生看護学修士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
小山 剛	コヤマ ツヨシ	58	社会福祉法人長岡福祉協会・理事・評議員・執行役員・こぶし園総合施設長	高齢者ケア、地域包括ケアシステム 社会学士	ケアシステム分野担当、産官学民連携アドバイザー
木村 昌平	キムラ ショウヘイ	69	セコム株式会社 取締役会長	社会の安全安心の確保 文学士	産官学民連携アドバイザー
野呂 順一	ノロ ジュンイチ	58	(株)ニッセイ基礎研究所 代表取締役社長	保険数理、年金数理 学士(理学)	産官学民連携アドバイザー
濱 隆	ハマ タカシ	59	大和ハウス工業株式会社取締役 常務執行役員／総合技術研究所長／環境エネルギー事業担当	研究開発 工学士	産官学民連携アドバイザー
小林 仁	コバヤシ ヒトシ	52	株式会社ベネッセホールディングス取締役/株式会社ベネッセスタイルケア代表取締役社長	介護事業の経営 経営学士	産官学民連携アドバイザー

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
関根 千佳	セネ 千	55	株式会社ユーディット・会長兼シニアフェロー/ 同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究 科・教授	ユニバーサルデザイ ン 法学士	産官学民連携アドバイザー
大熊 由紀子	オウマ ユキコ	72	国際医療福祉大学大学院教授	ソーシャルサービス 論 教養学士	産官学民連携アドバイザー
南 砂	ミナミ マサコ	58	読売新聞東京本社・編集局次長兼医療部長	医療・医学、科学技 術政策、メディア論 医学士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
河出 卓郎	カワテ タカ	59	(株)毎日新聞東京本社・編集編成局兼企画編 集室部長委員	社会保障論 文学士	産官学民連携アドバイザー
John Creighton Campbell	ジョン クレイトン キャンベル	71	高齢社会総合研究機構・客員研究員(ミシガン 大学・名誉教授)	ジェロントロジー Ph. D.	国際連携推進アドバイザー
宮島 俊彦	ミヤジマ トシヒコ	60	三井住友海上火災(株)・顧問	高齢者ケアシステム 教養学士	産官学民連携アドバイザー

(機関名:東京大学 申請類型:複合領域型(横断的テーマ) プログラム名称:活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【背景】わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から17年後の2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める**超高齢社会が到来**する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。

【課題】こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした**社会システムを組み替える必要性**が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリデザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。この課題に世界のトップランナーとして直面しているわれわれは、**高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すこと**によって**高齢者も社会の支え手とする社会システム**（および、それを支える居住環境システム）、**活動レベルが低下して介助が必要になった後も、施設収容により対応するのではなく、住み慣れた地域社会の中で、できるだけ自立的に活力を維持しながら暮らせる社会システム**（と居住環境システム）を実現するなど、**世界に先駆けてその解決策の先進的モデルを生み出す**ことが求められている。

【概要】本プログラムは、人生90年時代において、高齢者が活力を持って地域社会の中で生活できる期間をより長く、要介護や施設収容の期間を最小化することを通じて、高齢者のQOLを高めると同時に、家族と社会の負担を軽減し、高齢者と社会の活力を維持向上させることを目標に、**世界に先行するジェロントロジー教育研究の拠点である東京大学・高齢社会総合研究機構**を軸に、東京大学の有する世界トップクラスの大学院研究科である、人文社会科学、教育学、法学、総合文化学、工学、農学、医学、新領域創成科学、情報理工学の**9研究科30専攻等の総力を結集し、修士博士一貫の博士課程**による教育を通じて**活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダーの養成**に取り組むものである。

【特色】本プログラムでは、多様な関係分野の教員や産官学民連携諸機関および海外の大学等の国際連携機関のサポートの下で、選り抜かれた大学院生が、①**ジェロントロジー（老年学）や高齢社会問題に関する講義**を通じ高齢社会問題に関する多様な分野に関する**俯瞰的総合的な知識**を獲得し、②多様な他分野の専門家とチームを組んで課題解決に取り組む**フィールド・アクション・スタディ**演習や、国際的なコミュニケーション能力と多文化・多分野のチームワーク等を学ぶ**グローバル演習**を履修することを通じ、**グローバルなチームワーク力とリーダーシップ**および現実社会における**課題解決能力**を養い、③所属専攻において培った**深い専門的研究能力**を軸にしながら、高齢社会の様々な問題の解決に資する**独創的で質の高い博士の学位研究**を成し遂げることを通じ、**活力ある超高齢社会を共創するための能力**、すなわち、①**専門分野に関する新たな知見を深く掘り下げる専門的学術研究能力**と、②**ジェロントロジーや高齢社会問題に関する幅広い俯瞰力**、③**多分野の専門家チームを率いて問題解決に取り組む突出した課題解決能力**、の3つの能力を兼ね備えた、人材を養成しようとするものである。

【優位性】東京大学の高齢社会総合研究機構を中軸に、世界トップクラスの9研究科30専攻等、産官学民連携ネットワーク、国際連携ネットワークで構成される体制により、**世界最優位の高齢社会研究拠点**が形成される。また、このプログラムを通じて、①**高齢社会問題に関わる実社会の動向や潜在的ニーズを踏まえた基礎研究**（たとえば高齢者の心と体の問題に関する研究）が**飛躍的に発展**するとともに、②こうした基礎研究によって得られた**新たな知見やエビデンス**を基礎に、**高齢社会の真のニーズに応える様々な素材、技術、手法、システムや制度が研究開発**されることが期待される。（たとえば、新たな療法やケア手法の研究、医療看護介護の統合的システムの構築、虚弱化予防・健康維持のための**革新的手法の開発**、最新のICT・AI技術を活用した**革新的な見守り緊急通報システム**の開発、コミュニティ活動や生きがい就労等を促進する**コミュニティ・マネジメント手法**の開発、高齢者の日常生活をサポートする製品やシステムの開発、およびその基礎となる**技術・新素材**等の研究開発、高齢者の住宅内死傷事故を抜本的に軽減する**安全住宅の材料や構法**の研究開発、日常生活圏における高齢者の活動や高齢者を包摂する活動を物的・空間的にサポートする**居住環境システム**の構想、自治体レベルから国・国際レベルに至る、**様々な制度やその運営システム**の構築、等々)。③また、本プログラムにより産み出された**新たな知見や技術・手法**は日本や世界で**産業のイノベーション**や**新たな産業分野の創出**をもたらすと同時に、④本プログラムにより**育成されたリーダー**は、国内で活躍するだけでなく、**高齢社会問題の世界最先進国である日本において創出された超高齢社会対応の諸施策のモデルや社会システムを、アジアや世界各国において各国のリーダー達と協働して当該国に移植・展開する活動**を担う、まさに、**グローバルなリーダーとして世界に貢献**することが期待される。

機 関 名	東京大学
プログラム名称	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム
<p>[採択理由]</p> <p>世界に先駆けて超高齢社会を迎えている日本が世界でイニシアティブを取り得る分野であり、高齢化に対応した社会システムづくりという喫緊の課題に対応した適切なプログラムである。</p> <p>すでに学内には高齢社会総合研究機構が設立されており、教育の基盤があり、課題の明確さ、実行面での安定感と合わせて、大きな教育成果が期待される。また、「医・職・住」の各分野におけるフィールド実践を積み重ねてきており、教育の統合性、学内の教員の整合的協力など、具体的で優れたプログラム構築がなされている。長い時間的射程での人材育成を目指すプログラムであり、実績、準備も申し分なく、これまでの実績においてもアカデミア以外への就職が多いところから判断して、実践的な分野でグローバルなリーダーを養成しうると考えられる。</p> <p>他の先進諸国におけるジェロントロジー教育研究拠点を持つ大学との連携もなされており、これを通じて、当プログラムの成果を先進諸国に移転するという効果も期待される。</p> <p>一方、プログラムの実践的性格のためもあり、リーダーとは言え、そのリーダーシップの範囲が現場レベルに限定されてしまう恐れなしとは言えないところがある。学生の新しい想像力を生かすチャンスを広げ、また政策立案の中心に関わる方向性をもたせる教育プログラムとして、一層の工夫が要請される場所である。</p>	